

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろえちご塾」（恒文社）等

「シャベルとスコップ」

前回（2月号）「雪国はつらいよ」で、辛い雪かきの話をいたしました。実は内心しかもか気になっていたことがあるのです。雪かきに付き物の道具、スコップか？シャベルか？さて、どっちだろ？ということです。そこで困った時の他人頼み、早速会う人ごとに聞きこみ調査をいたしました。「〇エイ〇ブックやらツイッ〇ーを使えばいいかね」という声はパスして、私の基本は聞き込み突撃取材と現場主義、機器に頼らずエコライフ、咄嗟に聞かれて答える生の声にこそ真実がある！というわけです。

「シャベルとスコップ、雪かきの道具は？」と突撃インタビュー。

「あんた、ようしゃべるすけ、シャベルだわね」という人の声は一理あるけど今回無視。

「雪かきかね、まあ部下にさせるからねえ、ハッハッハ．．．」という人の声も当然無視。

「地元ではシャボロであります！」という新潟市出身の人の声は重要参考意見。

さてさて、皆さん首をひねり腕組みし真剣に答えてくださった結果、以下のことが判明しました！

- 1 シャベルは大きい。スコップは園芸用か犬の散歩に携帯する感じで小さい。
- 2 シャベルは土を掘り起こすとき足を掛ける所があるが、スコップは先が尖っていて足が掛けられない。
- 3 「ショベルカー」という機材があるが、「スコップカー」はない。
- 4 シャベルは、語感からしてシャベル！と力が入るが、スコップはかわいらしい感じで今一つ豪雪地では頼りない感じ。

ということで、「雪かきはシャベルだ！」と（周囲の）県民の意見が一致いたしました。

ところが、新潟旧市内でも稀に見る大雪の日、某スーパーで「雪かきスコップ」と表示した大型プラスチック製道具を発見。ありゃりゃ、と思い急いで某ゼネコン業界の首領（ドン）に聞いたところ、「シャベルは英語、スコップはオランダ語、だっけどっちも同じら。しかし、業界ではシャベルは足を掛ける所があり、スコップは先が尖っていると区別するところもある」とプロならではの回答をいただきました。さらに調査していくと、なんと「一般的に西日本では大きな方はシャベル、小さな方はスコップを指すが、東日本では大はスコップ、小はシャベルを指す」という東西の差も判明しました。ということは、新潟県は言語や食文化等に西日本の要素がみられるように雪かき道具も然り、なのでしょう。

新潟県には豪雪地の雪かきボランティアがあり、「スコップ」と称して活動しています。これはこれでプリティな名称かと思いますが、雪中作業は黙々と「えちごシャベル隊」！この方が作業もはかいくし、いっぺんこど力が入る感じがしますが、なじらるね。さて雪国も暦の上では春、スコップもシャベルもどうぞ出番のないようにと祈ります。

